

## == 絵本の読み聞かせ ==

図書館や本屋さんに行くと、その季節や時期に合った本がコーナーに集められています。パッと目につくところに置かれてありますから、普段なら手に取らないような絵本でも思わず手に取り、読んでみようかなという気になります。

先日行った本屋さんには、鬼にちなんだ絵本がずらりと並べられていました。4歳の娘のお気に入り『かえるをのんだととさん(福音館)』。新潟県の昔話が元になっているお話です。ととさんと和尚さんの掛け合いののち、鬼が逃げていく最後は何度読んでも笑えます。

最近、絵本の読み聞かせに関して、脳科学の分野で新しい事実がわかってきました。それは絵本を読んでもらっている時に活発に働いている部分は、思考力や知育と関係のある前頭前野ではなく、大脳辺縁系だということです。大脳辺縁系は感情を生み出し、人間の基本的な行動を決定する領域です。結果的には文字を覚えたり、想像力が育ったりということはあると思いますが、絵本を読んでもらっているその時間は、感情が大きく動いているのです。つまり、喜怒哀楽・やる気、こういった気持ちが育っている時間なんですね。この部分を小さなころから働かせることで情緒が安定し、感情豊かに育つといわれています。一方、読んでいる親は前頭前野が働いているのだとか。

読み聞かせるのも時間のない時は大変、早く自分で読めるようになってくれないかしら、と思うこともありますが、お互いの脳を活動させるために、読み聞かせることが大切と改めて感じました。

(臨床心理士 藤井あづさ)